

奄美大島船紀行 ～新造船発見～

会員 福富 廉 (2026年3月)

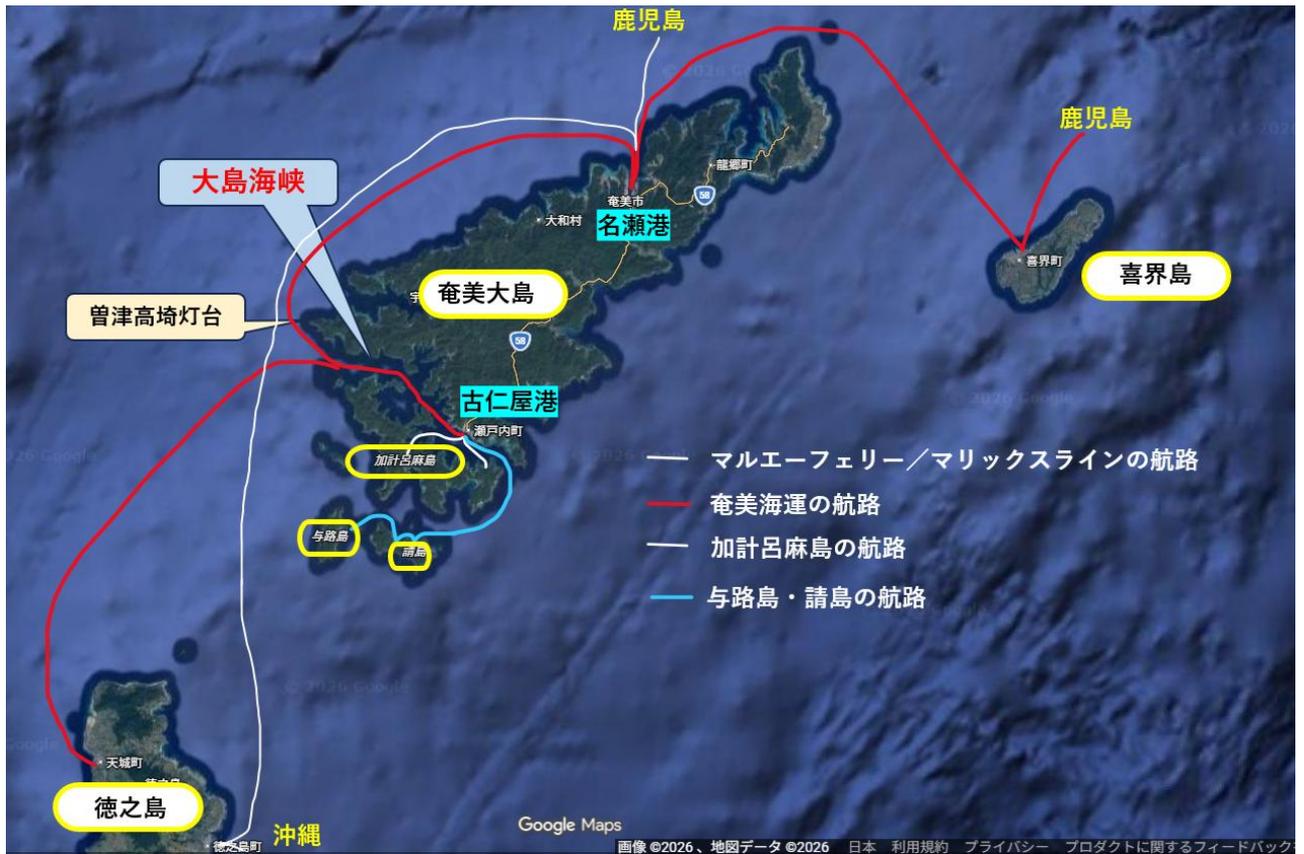
1. 大島海峡通峡 「フェリーあまみ」

奄美大島の船と言うと、多くの方はマルエーフェリーかマリックスラインのフェリーを思い浮かべると思うが、ここに初めて行って以来、南の加計呂麻島との間の大島海峡を通る奄美海運のフェリーで通峡するのをいつも楽しみにしている。それは素晴らしい景色で、ここにバハマ周辺のプライベートアイランドのような寄港地を造ればいいのにと最初思ったことだが、後で、ロイヤルカリビアンを核としたクルーズ寄港誘致を基幹とした観光整備計画があつて、残念ながら地元の反対があつて頓挫ことを知り、驚いたことがあつた。

ちなみに、奄美海運は「フェリーあまみ」と「フェリーきかい」の2船運航で、以前は、両船の徳之島までに加え、「フェリーきかい」のみ沖永良部島まで運航されていてダイヤが異なっていたが、昨年からは沖永良部島への運航が休止され、同じダイヤになったことを来てから知った。



ターミナル裏の奄美ポートタワーホテルの9階の部屋から見た入港する「フェリーあまみ」
ここは朝 7:30 の船に乗るにはとても便利で、撮影してからでも十分間に合う



奄美大島周辺の航路図



大島海峡の西端の曾津高崎灯台 ここで大きく回り込む



大島海峡 左が奄美大島、右は加計呂麻島



大島海峡 左が奄美大島



奄美大島南東端の街と港、古仁屋（瀬戸内町）



夜の鹿児島行き「クイーンコーラルクロス」



早朝の那覇行き「クイーンコーラルプラス」



鹿児島港からの物資輸送にあたる 2023 年就航の共同組海運の RORO 船「つばさ」

2. 加計呂麻島航路 「フェリーかけろま」

二次離島の加計呂麻島へは古仁屋港から瀬戸内町営の両頭フェリー「フェリーかけろま」が瀬相港 (25 分) と生間港 (いけんま : 20 分) へ其々交互に 1 日合計 7 往復している。



「フェリーかけろま」

(左) 古仁屋港にて

(下左) 加計呂麻島・生間港にて

(下右) 奄美大島から学校給食を運ぶ
トラックが下船 (瀬相港)





古仁屋港を出港する「フェリーあまみ」



この付近の貨物輸送を担う RORO 船「天長丸」



加計呂麻島の瀬相港



加計呂麻島の生間（いけんま）港



古仁屋港と加計呂麻島の間には海上タクシーが頻繁に走っており、瀬相港へはフェリー1日4便に対して乗合定期便が7便ある。料金はフェリー片道360円に対して400円。生間港への定期便は無いが、チャーターで片道2,500円程。左写真は港奥の海上タクシーの溜まり場で右の茶色の建物が待合所。右写真は乗合定期便「みなみ丸Ⅱ」



水中観光船「せと」



奄美海上保安部古仁屋海上保安署の
巡視艇「いそなみ（PC133）」

3. 与路島（よろしま／よろじま）・請島（うけじま）航路 「せとなみ」

奄美大島から見ると加計呂麻島の裏側にある二次離島のこの2つの島へも古仁屋から瀬戸内町営の「せとなみ」が1日当たり0.5～1.5往復走っている。この日、加計呂麻島に行って古仁屋港に帰ってきたら、同じ船名の「せとなみ」が着岸していた。それが、今年に入って墨田川造船で完成した新造船だった。1週間ほど前に来島して慣熟訓練をしているようで、就航予定日は4月1日らしいが、まだ正式には決まっていないとのことだった。主要目を比較すると、以下の通り。

現船	総トン数 87トン	長さ 28.0m	幅 6.2m	深さ 2.6m	載貨重量 15トン	最大 54名
新船	総トン数 89トン	長さ 30.3m	幅 6.2m	深さ 2.7m	載貨重量 25トン	最大 54名

クレーン1基、小型トラック1台積載設備は同じ



もうすぐ引退する現行の「せとなみ」 最後のひとがんばり！



就航間近の新造船「せとなみ」



新旧「せとなみ」の2ショット



現行「せとなみ」 船尾の車両搭載設備がよくわかる



新船「せとなみ」